

2019年12月期決算 参考資料

I サマリー情報	P.1
① 経営成績	P.1
② 財政状態	P.1
③ キャッシュ・フローの状況	P.1
④ 設備投資の状況	P.1
⑤ 非資金項目	P.1
II 2019年12月期 実績	P.2
① 損益計算書	P.2
② 製商品別売上高	P.4
③ 研究開発の状況	P.5
III 2020年12月期 業績予想	P.6
① 損益計算書	P.6
② 製商品別売上高	P.8

※ 本資料は累計期間に係る情報を掲載しており、百万円未満を切捨てて表示しております。

※ 本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。したがって、実際の業績等は、様々な要素により、これらの業績見通し等とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見直しを見直すとは限りません。

2020年2月6日



鳥居薬品株式会社

I サマリー情報

① 経営成績

(単位:百万円)	2018年12月期		2019年12月期		2020年12月期 予想	増減 C-B	増減率 (%) (C-B)/B
	A	B	B-A	(B-A)/A			
売上高	62,551	42,998	△19,553	△31.3	41,600	△1,398	△3.3
営業利益	4,951	1,430	△3,520	△71.1	3,000	1,569	109.7
経常利益	5,080	1,691	△3,388	△66.7	3,300	1,608	95.0
当期純利益	1,164	27,367	26,202	-	2,100	△25,267	△92.3
(参考)							
研究開発費	4,138	2,956	△1,181	△28.5	1,000	△1,956	△66.2
1株当たり当期純利益(EPS)	(円)	41.51	974.98	933.47	74.80	△900.18	
自己資本当期純利益率(ROE)	(%)	1.3	27.3	26.0			
総資産経常利益率	(%)	4.9	1.4	△3.5			
売上高営業利益率	(%)	7.9	3.3	△4.6			
総資産当期純利益率(ROA)	(%)	1.1	22.5	21.4			

② 財政状態

(単位:百万円)	2018年12月期		2019年12月期		増減 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
	A	B	B-A	(B-A)/A		
総資産	103,253	139,943	36,690	35.5		
純資産	87,092	113,125	26,033	29.9		
自己資本比率	(%)	84.3	80.8	△3.5		
1株当たり純資産(BPS)	(円)	3,103.28	4,029.30	926.02		

③ キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)	2018年12月期		2019年12月期		増減額 B-A
	A	B	B-A	(B-A)/A	
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,259	42,499	34,239		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△27,068	2,099	29,168		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,432	△1,433	△1		
現金及び現金同等物の期末残高	15,654	58,819	43,165		

④ 設備投資の状況

(単位:百万円)	2018年12月期		2019年12月期		2020年12月期 予想	増減額 C-B	増減率 (%) (C-B)/B
	A	B	B-A	(B-A)/A			
設備投資額	811	330	△480	△59.3	804	473	143.3
有形固定資産	660	203	△456	△69.2	541	337	165.4
無形固定資産	150	126	△24	△15.9	263	136	107.7

⑤ 非資金項目

(単位:百万円)	2018年12月期		2019年12月期		2020年12月期 予想	増減額 C-B	増減率 (%) (C-B)/B
	A	B	B-A	(B-A)/A			
減価償却費	1,040	985	△54	△5.2	882	△103	△10.5
長期前払費用償却費	965	486	△479	△49.7	552	65	13.6

Ⅱ 2019年12月期 実績

① 損益計算書

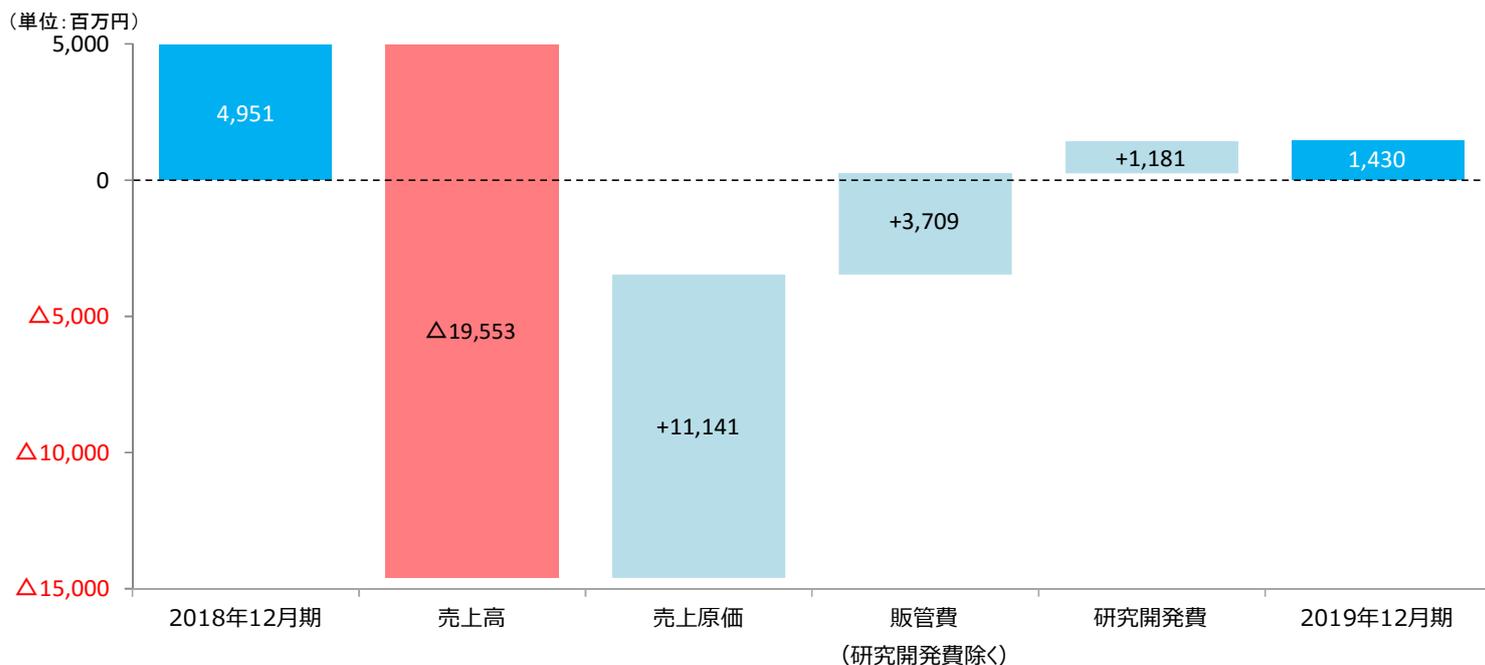
(単位:百万円)	2018年12月期	2019年12月期	増減額 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
	A	B		
売上高	62,551	42,998	△19,553	△31.3
製商品売上高	61,835	40,641	△21,193	△34.3
HIV感染症領域を除く 製商品売上高	40,386	40,641	255	0.6
腎・透析領域	21,991	18,005	△3,986	△18.1
皮膚疾患領域	9,126	9,049	△77	△0.8
アレルギー領域	3,803	7,627	3,824	100.6
その他	5,464	5,959	494	9.1
HIV感染症領域	21,448	-	△21,448	△100.0
その他の売上高	716	2,356	1,640	229.0
売上原価	31,844	20,702	△11,141	△35.0
製商品売上原価	31,781	20,588	△11,193	△35.2
その他の原価	63	114	51	81.5
売上総利益	30,707	22,295	△8,411	△27.4
販売費及び一般管理費	25,755	20,864	△4,890	△19.0
販管費(研究開発費除く)	21,616	17,907	△3,709	△17.2
研究開発費	4,138	2,956	△1,181	△28.5
営業利益	4,951	1,430	△3,520	△71.1
営業外損益	128	261	132	
経常利益	5,080	1,691	△3,388	△66.7
特別損益	△2,049	36,008	38,058	
税引前当期純利益	3,030	37,700	34,669	-
法人税等	1,865	10,333	8,467	
当期純利益	1,164	27,367	26,202	-

(参考) 売上高に対する比率

(単位:%)	2018年12月期	2019年12月期	増減 B-A
	A	B	
売上原価	50.9	48.1	△2.8
販売費及び一般管理費	41.2	48.6	7.4
研究開発費	6.6	6.9	0.3
営業利益	7.9	3.3	△4.6
経常利益	8.1	3.9	△4.2
当期純利益	1.9	63.6	61.7

【対前期増減要因】

営業利益 (1,430百万円 対前期△3,520百万円)



主な増減要因

売上高	: 抗HIV薬販売権の返還による減少、レミッチの後発品の影響による減少、アレルギー領域の伸長による増加 抗HIV薬流通手数料収入による増加 ※製商品別売上高の増減については次頁をご参照ください。
売上原価	: 売上高の減少
販管費 (研究開発費除く)	: 売上連動経費の減少、特別転身支援制度の実施による人件費の減少、コスト低減効果による減少
研究開発費	: 共同開発費用の減少(JTS-661、JTE-052)

経常利益 (1,691百万円 対前期△3,388百万円)

特記事項: 特になし

当期純利益 (27,367百万円 対前期+26,202百万円)

当期 抗HIV薬販売権の返還に係る譲渡益	40,614百万円
事業構造改革費用(割増退職金等)	4,504百万円

② 製商品別売上高

(単位:百万円)	2018年12月期	2019年12月期	増減額	増減率 (%) (B-A)/A
	A	B		
製商品売上高	61,835	40,641	△21,193	△34.3
HIV感染症領域を除く製商品売上高	40,386	40,641	255	0.6
[腎・透析領域]				
レミッチ	11,598	8,693	△2,904	△25.0
経口そう痒症改善剤				
リオナ錠	6,603	6,630	27	0.4
高リン血症治療剤				
ケイキサレート ※	1,963	1,907	△56	△2.9
高カリウム血症改善剤				
その他	1,826	773	△1,052	△57.6
計	21,991	18,005	△3,986	△18.1
[皮膚疾患領域]				
アンテベート ※	5,536	5,439	△97	△1.8
外用副腎皮質ホルモン剤				
ロコイド ※	1,541	1,630	88	5.8
外用副腎皮質ホルモン剤				
ゼフナート	1,454	1,454	△0	△0.0
抗真菌薬				
その他	593	524	△69	△11.6
計	9,126	9,049	△77	△0.8
[アレルギー領域]				
シダキュア スギ花粉舌下錠 ※	405	3,654	3,249	801.8
スギ花粉症のアレルゲン免疫療法薬				
ミティキュア ダニ舌下錠 ※	1,247	2,749	1,502	120.4
ダニアレルギーのアレルゲン免疫療法薬				
シダトレン スギ花粉舌下液 ※	1,859	924	△935	△50.3
スギ花粉症のアレルゲン免疫療法薬				
その他	291	298	7	2.6
計	3,803	7,627	3,824	100.6
[その他]				
ビオスリー	2,682	2,843	161	6.0
活性生菌製剤(整腸剤)				
その他	2,782	3,115	333	12.0
計	5,464	5,959	494	9.1
HIV感染症領域	21,448	—	△21,448	△100.0

※ 自社品

(参考) 自社品売上高及び自社品比率

(単位:百万円)	2018年12月期	2019年12月期	増減	増減率 (%) (B-A)/A
	A	B		
自社品売上高	15,855	19,068	3,212	20.3
自社品比率 (%)	25.6	46.9	21.3	—

③ 研究開発の状況

開発番号 「製品名」	予定適応症等	剤形等	開発段階（国内）					備考
			Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認	
腎・透析領域								
JTT-751 「リオナ錠」	鉄欠乏性貧血	経口剤			Phase III			<ul style="list-style-type: none"> ・Keryx Biopharmaceuticals, Inc.と日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結 ・日本たばこ産業(株)との共同開発（適応追加） ・日本たばこ産業(株)が2014年1月に高リン血症治療剤として製造販売承認を取得し、当社より販売中
JTZ-951	腎性貧血	経口剤				申請		<ul style="list-style-type: none"> ・日本たばこ産業(株)創製化合物 ・日本たばこ産業(株)と日本における共同開発及び販売に関するライセンス契約を締結 ・日本たばこ産業(株)が2019年11月に製造販売承認申請
皮膚疾患領域								
JTE-052 「コレクテム軟膏」	アトピー性皮膚炎	外用剤					承認	<ul style="list-style-type: none"> ・日本たばこ産業(株)創製化合物 ・日本たばこ産業(株)と日本における共同開発及び販売に関するライセンス契約を締結 ・日本たばこ産業(株)が2020年1月に製造販売承認取得
	小児アトピー性皮膚炎	外用剤			Phase III			<ul style="list-style-type: none"> ・日本たばこ産業(株)創製化合物 ・日本たばこ産業(株)と日本における共同開発及び販売に関するライセンス契約を締結
アレルギー領域								
TO-203 「ミティキュア ダニ舌下錠」	室内塵ダニアレルギー疾患 (アレルギー性喘息) (アレルギー免疫療法薬)	舌下錠			Phase II / III 終了※			<ul style="list-style-type: none"> ・ALK-Abelló A/Sと日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ・自社開発 ※今後の開発方針について検討中

前回公表時（2019年10月31日）からの変更点

- ・日本たばこ産業(株)によるJTZ-951（腎性貧血）の国内製造販売承認申請
- ・日本たばこ産業(株)によるJTE-052「コレクテム軟膏」（アトピー性皮膚炎）の国内製造販売承認取得

上記のほか、以下の契約を締結しております。

- ・2020年1月 日本たばこ産業(株)がDermavant Sciences GmbHと日本における皮膚疾患領域での独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結したアリル炭化水素受容体（AhR）モジュレーター（tapinarof）について、日本における共同開発及び販売に関する契約（日本たばこ産業(株)との共同開発）

（参考）

- ・2017年10月に日本たばこ産業(株)が、EirGen Pharma Limitedと慢性腎臓病患者における二次性副甲状腺機能亢進症（SHPT）治療薬であるcalcifediol徐放製剤（米国での販売名「RAYALDEE®」、OPKO Health, Inc.が開発及び販売）について、日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結した旨、また、製造販売承認取得後の販売については、当社が行う予定である旨、公表しております。

当社の親会社である日本たばこ産業(株)（うち医薬事業部門）とは、医薬品に関する製品及びサービスにおいて、各々の強みを生かし、当社は主に製造と販売の機能を担っており、親会社は研究開発の機能を担っております。なお、親会社の研究開発の状況は、日本たばこ産業(株)ウェブサイト上の「医療用医薬品臨床開発状況」をご参照ください。

<https://www.jti.co.jp/investors/library/business/briefing/index.html>

Ⅲ 2020年12月期 業績予想

① 損益計算書

(単位:百万円)	2019年12月期 実績 A	2020年12月期 予想 B	増減額 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
売上高	42,998	41,600	△1,398	△3.3
製商品売上高	40,641	40,980	338	0.8
腎・透析領域	18,005	14,870	△3,135	△17.4
皮膚疾患領域	9,049	9,290	240	2.7
アレルギー領域	7,627	11,050	3,422	44.9
その他	5,959	5,770	△189	△3.2
その他の売上高	2,356	620	△1,736	△73.7
売上原価	20,702	20,000	△702	△3.4
売上総利益	22,295	21,600	△695	△3.1
販売費及び一般管理費	20,864	18,600	△2,264	△10.9
販管費(研究開発費除く)	17,907	17,600	△307	△1.7
研究開発費	2,956	1,000	△1,956	△66.2
営業利益	1,430	3,000	1,569	109.7
経常利益	1,691	3,300	1,608	95.0
当期純利益	27,367	2,100	△25,267	△92.3

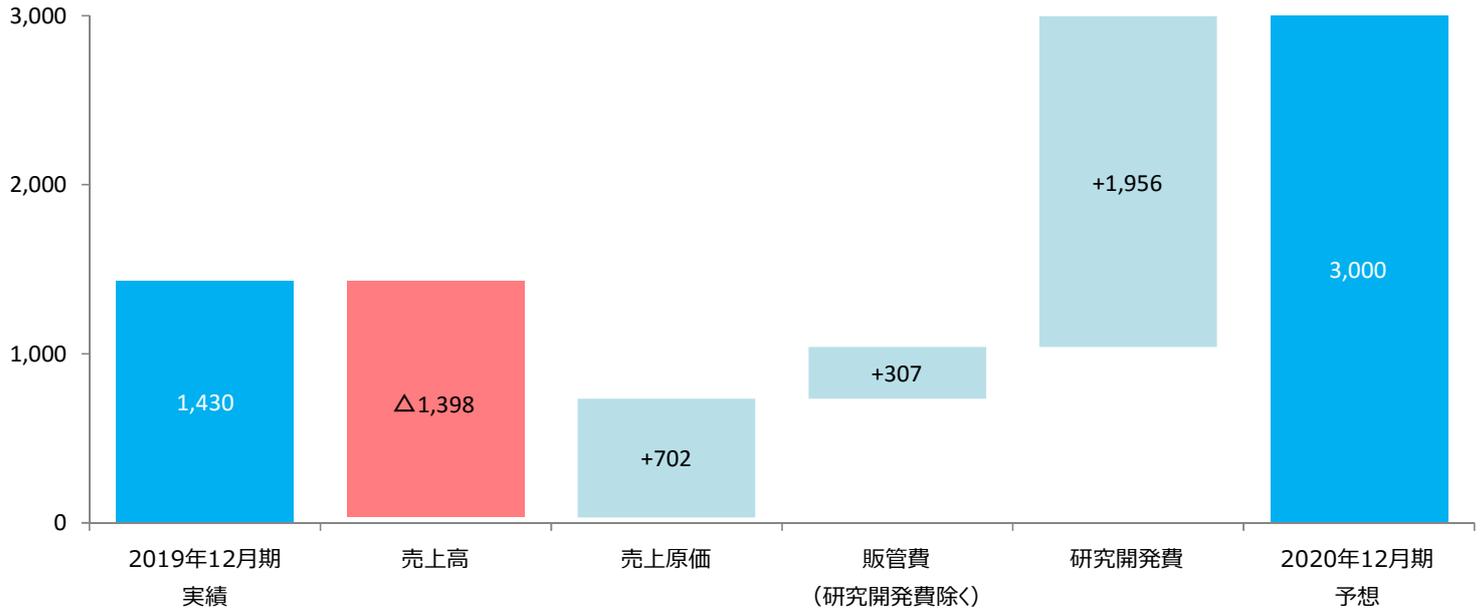
(参考) 売上高に対する比率

(単位:%)	2019年12月期 実績 A	2020年12月期 予想 B	増減 B-A
売上原価	48.1	48.1	0.0
販売費及び一般管理費	48.6	44.7	△3.9
研究開発費	6.9	2.4	△4.5
営業利益	3.3	7.2	3.9
経常利益	3.9	7.9	4.0
当期純利益	63.6	5.0	△58.6

【対前期実績増減要因】

営業利益 (3,000百万円 対前期実績 + 1,569百万円)

(単位:百万円)



主な増減要因

売上高	: 薬価改定による減少、アレルギー領域の伸長による増加 抗HIV薬流通経過措置の終了による手数料収入の減少 ※製商品別売上高の増減については次頁をご参照ください。
売上原価	: 販売品目の構成変化 (自社品比率の上昇) による減少
販管費 (研究開発費除く)	: 前期実施の事業構造改革 (人員数最適化、コスト低減等) の通年効果による減少
研究開発費	: 前期実施の事業構造改革 (機構改革) の通年効果による減少、共同開発費用 (JTT-751) の減少

経常利益 (3,300百万円 対前期実績 + 1,608百万円)

特記事項: 特になし

当期純利益 (2,100百万円 対前期実績△25,267百万円)

前期 抗HIV薬販売権の返還に係る譲渡益	40,614百万円
事業構造改革費用 (割増退職金等)	4,504百万円

② 製商品別売上高

(単位:百万円)	2019年12月期 実績 A	2020年12月期 予想 B	増減額 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
製商品売上高	40,641	40,980	338	0.8
[腎・透析領域]				
リオナ錠	6,630	6,620	△10	△0.2
高リン血症治療剤				
レミッチ	8,693	6,350	△2,343	△27.0
経口そう痒症改善剤				
ケイキサレート ※	1,907	1,810	△97	△5.1
高カルウム血症改善剤				
その他	773	90	△683	△88.4
計	18,005	14,870	△3,135	△17.4
[皮膚疾患領域]				
アンテベート ※	5,439	4,920	△519	△9.6
外用副腎皮質ホルモン剤				
ロコイド ※	1,630	1,490	△140	△8.6
外用副腎皮質ホルモン剤				
ゼフナート	1,454	1,360	△94	△6.5
抗真菌薬				
その他	524	1,520	995	189.6
計	9,049	9,290	240	2.7
[アレルギー領域]				
シダキユア スギ花粉舌下錠 ※	3,654	6,340	2,685	73.5
スギ花粉症のアレルゲン免疫療法薬				
ミティキユア ダニ舌下錠 ※	2,749	4,150	1,400	50.9
ダニアレルギーのアレルゲン免疫療法薬				
その他	1,223	560	△663	△54.2
計	7,627	11,050	3,422	44.9
[その他]				
ビオスリー	2,843	2,990	146	5.1
活性生菌製剤(整腸剤)				
その他	3,115	2,780	△335	△10.8
計	5,959	5,770	△189	△3.2

※ 自社品

(参考) 自社品売上高及び自社品比率

(単位:百万円)	2019年12月期 実績 A	2020年12月期 予想 B	増減 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
自社品売上高	19,068	21,600	2,531	13.3
自社品比率 (%)	46.9	52.7	5.8	-